

《担当者名》歯学部講師 / 水谷 博幸

【概要】

口腔の健康を保持・増進し、歯科疾患を予防するための自然科学的ならびに社会科学的な知識および技術を理解し、この問題の解決に必要な態度を養う。

口腔衛生学の内容は、より実践的な歯科予防処置や保健指導の科目で学習することの基礎的な知識を中心にしてつくられているが、臨床や歯科保健活動において実際に役立つことを何よりのねらいとしていることを理解する。

保健指導の専門家としての立場からの指導力の養成を念頭に置いて学習をすすめる。

【学修目標】

歯・口腔の健康と予防について説明する。

口腔の置かれた環境と歯口清掃の目的、方法について説明する。

齲蝕や歯周疾患の予防方法について説明する。

ライフステージごとの保健管理について説明する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	編 歯・口腔の健康と予防 1章 総論 1. 口腔衛生学とは 2. 健康障害への対応の5つのステップ 3. 健康障害への対応のための3つの手段	口腔保健向上のねらいは歯・口の機能の保持・増進にあることを学ぶ。 口腔保健向上のためには予防の体系として3相・5段階があり、これらを実際に行っていく際には、自分自身（セルフケア）、専門家、社会組織による3つの手段があることを修得する。	水谷 博幸
2	歯・口の健康 1. 歯・口の正常像（健康像） 2. 歯・口の機能 3. 全身と歯・口の発育 4. 全身疾患との関連	口腔保健向上のためには、基本的事項として歯や口腔諸組織・器官の正常な形とはたらきについてよく知っておくことが大切である。 歯・口の機能として、咀嚼、発音、味覚、審美感があることを理解する。 歯・口の健康は全身の健康と深いかわりがあり、また全身の健康障害は歯・口の疾患・異常に影響があることを学習する。	水谷 博幸
3 4	口腔の不潔 1. 口の環境 2. 歯の付着物・沈着物 3. 不潔状態の表現、把握法	人間は口腔を使って食事することから、口腔に対する衛生管理を怠ると口腔常在菌にとって最適の条件になることを知る。 歯面に対する付着・沈着物には、ペリクル、プラーク、歯石などがあることを学ぶ。	水谷 博幸
5 6	2章 口腔清掃 1. 口腔清掃の意義 2. 口腔清掃法 3. 人工的清掃法の分類と用具 4. 歯磨剤 5. ブラッシングの術式 6. ブラッシング指導の概要	不潔状態の評価には付着物の量や範囲に応じて点数を与える疫学的指標（指数）を用いることを知る。 ブラッシング方法は目的によって選択され、その指導は保健指導の中でも重要な意義をもっていることを理解する。	水谷 博幸
7 9	3章 歯科疾患の疫学 1. 齲蝕の疫学 2. 歯周疾患の疫学 3. その他の疫学	エビデンスに基づいた疫学調査や有病率等について学ぶ。	水谷 博幸
10	4章 齲蝕の予防 1. 齲蝕発生要因	齲蝕は感染症であるが、必ず歯垢の直下の特定の歯面に発生し、放置すると進行して歯質が破壊される疾	水谷 博幸

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
12	2. 齲蝕活動性 3. 齲蝕の予防法 4. フッ化物の応用	患であることを学習する。 齲蝕は多要因性疾患であって、口腔内常在菌のほかに、食餌性基質、歯・宿主、時間の要因が複雑にかかり合って発症・進行する。 齲蝕予防には、フッ化物の応用、ブラークコントロール、含糖飲食物に対する注意、歯の形態や歯質の改善を組み合わせた保健指導や予防処置が大切であることを理解する。	
13) 14	5章 フッ化物による齲蝕予防 1. 我が国のフッ化物応用 2. フッ素の代謝 3. フッ化物の毒性 4. フッ化物応用による齲蝕予防法	フッ化物は人間生態系において特別なものではなく、その取り込みや毒性について学び、歯科衛生士としての役割を学ぶ。 フッ化物による齲蝕予防法には全身の応用法と局所的応用法があり、わが国では後者が実施されていることを知る。	水谷 博幸
15	6章 歯周疾患の予防 1. 歯周疾患の疫学 2. 歯周疾患の症状と分類 3. 発病機構 4. 予防手段 5. 歯周疾患の予防処置	歯周疾患は宿主と寄生体のバランスが崩れた時に発症し、進行悪化していくことを理解する。 歯周疾患の予防には、直接的原因である歯垢の除去と宿主の抵抗力を強めることが重要であることを理解する。	水谷 博幸
16	7章 その他の疾患・異常の予防 1. 顎関節症 2. 口臭 3. 舌痛症 4. 口腔癌 5. 不正咬合	口腔心身症には顎関節症、口臭症および舌痛症などがあり、有効な予防・治療法として心理的療法があることを学ぶ。 口腔癌の占める割合は、全癌のなかの約1%であり、舌癌が最も多いことを知る。 白板症などの前癌病変に対しては、早期発見と適切な処置をとる必要があることを学ぶ。	水谷 博幸
17	8章 ライフステージごとの保健管理 編 健康に関わる地域の役割 1章 地域保健・公衆衛生	いろいろなライフステージに合わせた歯科保健の現状と法律との関係を学ぶ。 歯科衛生士は主として現場活動の面で大きな役割を担っていることを理解する。 社会または集団として口腔衛生を向上させる活動が地域歯科保健活動であり、それは一般の公衆衛生の各分野にわたり散りばめられて展開されていることを学ぶ。 地域保健活動には問題発見、地域診断、対策の立案、実施、評価の手順が大切であることを知る。 保健教育のねらいは、住民がよい保健習慣を身につけ、保健サービスを有効に利用し、健康増進への意志決定のための資料を提供することにあることを理解する。	水谷 博幸
18	2章 母子歯科保健	母子歯科保健活動は、母子保健法に基づいて妊産婦や新生児、乳児、幼児を対象に実施されていることを学ぶ。	水谷 博幸
19	3章 学校歯科保健	学校保健安全法における定期健診や就学時健診の歯科における役割を理解する。	水谷 博幸
20	4章 成人・高齢者歯科保健 5章 産業歯科保健 6章 精神歯科保健 7章 国際歯科保健	成人歯科保健は、いわゆる生産人口(15~64歳)を対象として行われる。生涯を通じての歯科保健対策の確立と歯科保健事業の実施を学ぶ。 8020運動について現状を学ぶ。 高齢者特有の口腔内状況を知り、対策を考える職種による口腔内の疾病について学ぶ。	水谷 博幸

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		精神障害者の歯科保健について学ぶ。 国や地域により健康水準や歯科保健医療の発達程度が異なっていることを理解する。	

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験90%、レポート及び授業態度（10%）を総合的に評価する。

【教科書】

保健生態学

【学修の準備】

予習：指定した教科書の項目を読んでおくこと。（60分）

復習：講義ノート・配布資料をまとめ、講義内容を理解しておくこと。（90分）